



Dr.生田 進一のワンポイント

神戸市サッカー協会医事委員長



(生田進一／神戸市サッカー協会 医事委員長 ／六甲病院整形外科)

人命の危機管理～JR脱線事故より

尼崎JR脱線事故の惨状はまだ鮮明に目に焼きついています。その際に民間の救急活動が大きな役割を果たしました。しかしながら乗客の多く(周辺にいた人も含めて)が、救急法や心肺蘇生法を心得ていれば、もっと多くの人の命が助かった気がします。それにしても同乗していたJRの職員が救急活動をせず、さっさと現場から立ち去るとは…!JR職員の教育がどうなっているのか、人命に対する責任感と危機感が希薄すぎます。

サッカーの指導者は、サッカーを教えている間、生徒の命を一時預かっていると考えてください。サッカーでは多くの場合打撲や捻挫等比較的軽い外傷で済みますが、時に、意識消失や心停止といった重大な局面に遭遇する事もあります。実際、日本全国では、毎年100人以上の方がスポーツ活動中に突然死を起こしています。JR脱線事故の場合もそうですが、人の命はいつどうなるか分からないものです。

意識がない、呼吸も脈も止まっている人を目の前にして、救急車が来るまでの間に現場にいる人が出来ることは、一次救命救急処置(心肺蘇生法)です。一生に一度かあるかないか分かりません。しかもたった数分間のことでしょう。でも、これにより生死を分ける事があります。機会があれば必ず実地訓練を行ってください。いざというとき、本で知っているだけではうろたえて正しい心肺蘇生は出来ないものです。米国ではすべての教職員に救急法と心肺蘇生法の資格取得が義務付けられています。さらに、主婦や学生といった一般人も取得している方が多いと聞きます。

交通事故は日常茶飯事、最近では卑劣な暴力・殺人も増加、天災も必ずいつかはやってきます。人の命の危機管理を指導者はもちろん、一般社会人から主婦の方まで見直す時代に来ているようです。

医事委員長 生田 進



[<戻る>](#)